

# 組織目標評価報告書（令和6年度）

部局名: **グローバル・ディスカバリー・プログラム**

部局長名: **ディレクター 菅 誠治**

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
1. より多くの優秀な志願者を確保するため、戦略的な広報活動を展開する。引き続き国内外の高校等に対するリクルート活動の継続やオンライン説明会の開催等に取り組むとともに、志願者のニーズに合わせて、YoutubeやInstagram等のSNSを通じて広報を行う。 2. 入試について、改善に向け不断の改革を検討するとともに各学部や関係部署と連携し、改善策を取り入れながら着実に実施する。 3. 学生一人ひとりの学習状況を把握し、ディレクター、メンター及びアカデミック・アドバイザーを中心に、教職員が協働して、適切なアドバイジングやサポートを行う。マッチング・トラックに進んだ学生については、各学部助言教員、卒業研究指導教員及びマッチング・アドバイザーで連携し、適切に指導を行う。 4. キャリア支援の充実に向けて、インターンシップに関する情報を積極的に発信する。また、卒業生の進路を把握し、過去の卒業生や就職先、キャリア・学生支援室及び学内各研究科と連携して、学生の就職や進学をサポートする。 5. 全学の教育改革に併せて、当プログラムにおいても必要な検討を行い、実施する。	(7-1)	1. 国内生向けの広報・リクルート活動として、オンラインでの入試説明会及び理系入試説明会を開催し、併せて約110名の参加があり、活発な質疑応答が行われた。また、今年度からの新たな試みとして、プログラムへの理解が深まるようオンラインでの個別相談会を実施した。国際生向けの広報・リクルート活動として、国際部と協力し留学生向けのフェアを二回開催し、併せて約150名程度の高校生・保護者の参加があり、盛況に終わった。また、ハワイでの日本の大学フェアに参加し、約140名程度のブースへの訪問があった。国際入試Ⅰ・Ⅱ期の出願者数共に過去一番の出願者数となり、国際入試Ⅱ期については、20名の募集人員に対して120名の出願があり、出願倍率は6倍となった。 2. 入試については、例年出願書類の不備が多く受付が困難であったため、出願者にとってわかりやすい募集要項となるよう大幅な募集要項の改訂を行った。昨年度の出願書類は4割程度不備があったが、今年度の不備書類は2割程度となり出願者に対して、わかりやすい募集要項となった。 3. 成績不振の学生に関しては、年2回事務室で資料を作成し、指導教員にも連絡の面談の場を設けるなど適宜対応しているところだが、2021年度入学者からのカリキュラム変更により履修指導が行き届いていない点もあるため、教務委員会において運用方法見直しを計画中である。マッチング・トラックに進んだ学生については、マッチング・アドバイザーを中心に教務委員長、メンター教員等の複数名で連携を取り合い指導をしている。 4. 教職員はMoodle掲示板で随時就職・インターンシップに関する情報を発信し、キャリア支援の充実にも努めている。また、GDP独自に、岡山芸術創造劇場ハレノワでインターンシップが行えるよう、教員が調整役となり、今年度は5名の学生がインターンシップを行った。ホームカミングデイでは、卒業生によるキャリア・進学についての講演を行い、活発な意見交換が行われた。また、外部講師を招聘しキャリアワークショップを開催し、学生支援委員会でも継続して修学支援・キャリア支援を行えるよう検討の上、次年度以降の計画を立てた。 5. 全学の教育改革に併せて、2025年度からのカリキュラム変更について、教務委員会を中心に議論を重ねた。当プログラムは、英語必修科目や課題探求科目等を履修しない点など、全学とは異なる部分が多いことから、独自かつ特色あるカリキュラム作成に注力した。
<b>②研究領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<b>④管理運営領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
1. 一昨年度取り続けた将来構想案を元に、プログラムのあり方をはじめ内容の見直しの中間とりまとめを目指すとともに、具体的な改革計画の策定に取り組む。 2. 運営委員会を実質的な議論の場となるよう、審議事項や議事進行などの見直しを行う。	(7-1)	1. 岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラム改革案が令和7年1月15日のグローバル・ディスカバリー・プログラム運営委員会にて承認され、執行部との調整を踏まえ令和7年4月の教育研究評議会でも全学にお示しできるように準備、調整中である。これを受けて、令和7年度は入試2年前予告をはじめ、改革案記載の内容を実行していく。 2. 令和7年3月3日のグローバル・ディスカバリー・プログラム教員会議にて、運営委員会を含めた「グローバル・ディスカバリー・プログラムにおける会議運営について」審議を行い承認された。令和7年度からは各会議において、審議・報告する議題を整理することで、GDP教員の意識を変え、プログラム内の運営・事務効率化を図ると共に、運営委員会が更に実質的な議論の場となるよう組織のあり方について更なる検討を行う。
<b>⑤センター・機構等業務</b>	関連する 中期計画の番号	<b>センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。